

22. 工芸染色における染色性についての研究(第1報)

直接染料による木綿布の染色性について

昭和女子大 内田 武

○小沢 治子

1. すでに直接染料のセルロースに対する染色性の問題については多くの研究がなされているが、これは染色

の物理化学的研究であり、われわれが実際に行っている
工芸染色は、その方法において、かなり相違するので果
してどの程度合致するか不明である。そこで実際の染色
条件に近く、しかも再現性のできるような方法によって
実験を行ない、その結果を検討してみた。なおその染色
布について染色堅ろう度の日光、洗濯試験をも合せ行い
染色の濃淡が染色堅ろう度に影響するか検討を加えた。

2. Nippon Sky Blue 5B. Benzopurpurine 4B.
Chrysophenine G. の市販品を使用し金巾を用い染色時
間、温度、染料濃度、助剤（食塩、炭酸ソーダ）を変化
させて染色し、その残液濃度を光電分光光度計により測
定し染着量を出した。染色堅ろう度については JIS 規格
にもとづいて行なった。

3. 本実験方法によってもかなりよく物理化学的研究
結果と一致していることがわかった。また本実験に使用
した染料は、SDC 法の分類 A, B, C に属する代表的染
料であるが、この結果をもとに SDC 法により分類され
た数多くの染料を工芸染色に利用することができる。染
色の濃淡による染色堅ろう度の影響はあまりみられな
かった。